



〒521-0062 米原市宇賀野 82-35
TEL/FAX 0749-52-2036
E-mail masafumi.mirai.tukuru@gmail.com



ホームページ



Facebook



Instagram



X(旧Twitter)

中川雅史(チームしが)一問一答 [令和7年9月16日]

農政水産部長答弁 担当:水産課

Q 醒井養鱒場の現状と課題について

① 6月に発生したレッドマウス病について

A 今回のレッドマウス病の発生に対し、県では醒井養鱒場の指定管理者である滋賀県漁業協同組合連合会や、国の研究機関と連携して対応しています。

発生から処分までの経緯といたしましては、5月20日頃から原因不明のイワナの死亡が発生し、水産試験場で各種魚病の検査を実施した結果、レッドマウス病の可能性が浮上したものでございます。このため、国の研究機関へ確定診断を依頼し、6月20日にレッドマウス病が確定したことから、同日中に飼育していたイワナの処分を行いました。

その後、現在に至るまで再発は見られず、病気が広がることは抑えられたとみています。

② 今事案による風評被害の有無について

A レッドマウス病発生後にあたる7月と8月の入場者数は、合計約20,000人と平常並みでございまして、心配されたレッドマウス病による風評被害は、ほぼ無かったものとみています。

③ 醒井養鱒場の歴史について

A 醒井養鱒場は、令和10年に150周年を迎える、日本最古の公設養鱒場です。

明治11年に、琵琶湖固有種であるビワマスの増殖を図る目的で設立され、昭和41年からはニジマスの養殖に着手、昭和54年にはビワマスの完全養殖に成功するなど、本県の水産振興に大きく貢献しています。

現在は、ニジマス、アマゴ、イワナ、ビワマスの種苗生産や養殖を行う事業に加え、マス類の展示や釣り堀などを有する観光施設としての側面や、養殖技術に関する試験・研究および普及といった役割を担っているところです。

④ 来場者のアクセス方法について

A 現在は路線バスが運行されておらず、醒井養鱒場が令和6年度に実施したアンケートによりますと、回答があったうち、約96%の方が自家用車やバイクを利用し、来場されているところです。

⑤ 来場者の属性について

A 醒井養鱒場が令和6年度に実施したアンケート結果によりますと、来場者の居住地は、県内と県外が概ね半々となっておりまして、県外からでは、愛知県からの来場者が最も多く27%、次いで岐阜県が19%、大阪府が16%と続いています。

また、家族構成については調査しておりませんが、来場者の年齢構成は31歳から40歳が最も多く24%で、次いで41歳から50歳が21%、10歳以下が9%となっているところです。

⑥ 駐車場の確保について

A 醒井養鱒場には普通車200台分の駐車場が確保されており、普段の土日においては、駐車場が不足することはない状況です。

一方、「ます祭」などイベント開催日は、駐車場の収容能力を超える来場者が集まることで、周辺道路に渋滞が発生することがあると承知しています。

こうした現状を踏まえ、より多くの来場者を受け入れられるよう、イベント開催日でのシャトルバスの活用など、アクセスの向上について検討してまいりたいと考えています。

⑦ 養殖生産への猛暑の影響の有無について

A 醒井養鱒場では、霊仙山の鍾乳洞から湧き出す水を使用しておりますことから、水温が年間を通して約12℃と安定しておりまして、マス類の飼育に最適な水温となっています。

醒井養鱒場では、これまでのところ、今年の猛暑による水温の上昇は見られず、養殖生産への影響は確認されていないところです。

⑧ ビワマス養殖の現状について

A 醒井養鱒場では、先ほどお答えしたとおり、ビワマスの養殖に関する試験研究を実施しておりまして、昭和54年にはビワマスの完全養殖に成功したほか、平成5年には養殖生産の効率化に向けた成長の良い系統を作り出すなどの成果を上げてきたところです。

現在、醒井養鱒場では、県内の養殖業者が利用する全てのビワマス種苗を供給しておりますほか、自らもビワマスを養殖し、直近の令和6年には約1.5トンを生産しているところです。

⑨ 養殖ビワマスの魅力発信のための取り組みについて

A 養殖ビワマスの魅力発信としましては、醒井養鱒場や県内のビワマス養殖業者で組織する「びわサーモン協議会」が養殖ビワマスを「びわサーモン」と名付け、差別化を図るためロゴマークを作成し、プロモーションを行うなど、ブランド価値の向上に取り組んでいるところです。

醒井養鱒場においても、「ます祭」等の催事において「びわサーモン丼」を提供する等、その美味しさを来場者に堪能していただく取組を行っておりまして、引き続き養殖ビワマスの魅力発信に努めてまいります。



12月2日(火)
チームしが県議団
代表質問
登壇予定

Activities 2025年4月～9月

4月



市内小中高の入学式



滋賀FUTURE THINKING WEEK



5月



市内のお祭り



長沢公家奴振り



BlueSticksSHIGA
開幕戦



米原駅前での県政報告



上丹生チューリップ畑



伊吹山植生
復元プロジェクト
I am earth



まいばらマルシェ
2025春



米原消防署竣工式

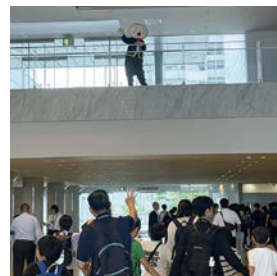
6月



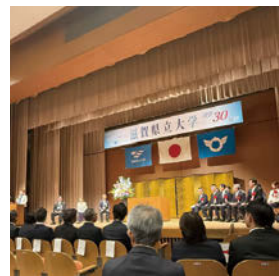
しが水素拠点形成
コンソーシアム
設立会合セミナー



びわ湖ホール音楽会



戦争体験講演会
(伊吹高校)



滋賀県立大学30周年記念式典



部活動地域移行
シンポジウム

7月



息吹の奏 夏祭り



大阪関西万博「滋賀県デイ」



米原市から県要望



米原市青少年育成市民会議
近江支部子育て研修会



米原市平和祈念式典



常任委員会県内行政調査
(滋賀県立近江学園)



やいと祭 国スポ障スポ
炬火リレー



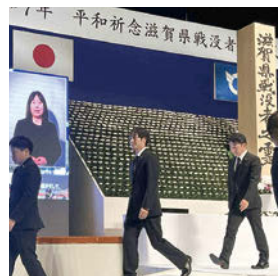
特別委員会県内行政調査
(空兵衛造船所)



みんなのBIWAKO会議



平和祈念滋賀県
戦没者追悼式



市総合計画キックオフ講演会
市民ワークショップ

9月



米原市避難所開設訓練
(伊吹小学校)



まいばら親子
エコステーション2025



第1回いっしょに考える
不登校講演会



国道8号線米原バイパス開通式典



まいばらミーツ・ザ・ワールド

滋賀県と米原市ともに取り組んでいます

水素サプライチェーン構築に向けた拠点整備プロジェクト創出事業



水素供給拠点の形成

(1) 水素受入拠点の候補検討

- ・鉄道貨物流動は、東北から関東、東海の太平洋側を経て、関西中央を通り、瀬戸内海側の中国、九州へとつながる路線が大動脈
- ・広範な鉄道貨物ネットワークの中でも輸送量の多い、関東、東海から関西ルートの中に滋賀県は位置。さらに、米原エリアは日本海側へ抜ける路線も接続し、東海道と北陸道の結節点



出典：(公財)全国通運連盟資料より

(2) 米原エリア周辺の水素需要ポテンシャル

- ・米原エリア周辺は一定規模の水素需要ポテンシャルが存在
- ・鉄道輸送を想定した場合、周辺CNPとの位置関係、鉄道貨物流動、操車場機能があったこと、また、周辺で水素需要ポテンシャルも見込まれる地域であることから、米原エリアは水素輸送の拠点候補としての優位性が高いと見られる

水素需要ポテンシャル

| 地域 | 万t-H ₂ /年 | 割合 |
|-------------|----------------------|------|
| 県全域 | 20.3 | 100% |
| 米原駅から10km半径 | 2.7 | 13% |
| 米原駅から20km半径 | 7.6 | 37% |

(3) 拠点形成イメージ

- ・県周辺のCNPから産業用水素等を鉄道輸送し、米原エリアに1次受入ハブの形成を想定
- ・1次受入ハブから、県内の工業団地など2次需要ハブへ水素等を供給
- ・滋賀県内の水素需要拡大に伴い、2次需要ハブが増加
- ・また、1次受入ハブから高速道路を利用する長距離トラック・バスの中継基地への水素供給も想定
- ・さらに、観光バスや観光船等への水素供給による観光振興の促進にも期待



事業の趣旨・目的

令和5年度に改定された政府の水素基本戦略の新たな目標(2040年の水素等導入1,200万トン等)を踏まえ、企業等と連携した拠点整備を目指したプロジェクトの創出を促進する。

令和7年度予算額19,800千円

事業の内容

- ① 米原における水素受入ハブ形成の実現可能性調査
米原エリアにおける水素1次受入ハブ形成について、水素キャリアや調達手段、受入体制、想定需要先、法規制、コスト感等の整理を行い、想定されるパターンごとにメリット・デメリット比較検討する。
- ② 企業連携によるプロジェクトの動き出しの促進
①の調査結果等を活用し、国等の機関との調整やプロジェクト体制の検討等、企業連携によるプロジェクトの動き出しの促進に資する支援等を行う。

〈しが水素拠点形成コンソーシアム〉

「内陸工業県」や「交通の要衝」といった本県の特徴を踏まえた水素等サプライチェーン構築に資するプロジェクトの組成を図るために設立。



会員(14団体)

SCREENホールディングス、積水化学工業、千代田化工建設、JR西日本、パナソニックEW社、みずほR&T、三菱化工機、村田製作所(野洲)、ヤンマーエネルギーシステム、彦根市、長浜市、野洲市、東近江市、米原市

オブザーバー(10団体)

近畿経済産業局、福井県、愛知県、三重県、四日市市、大阪府、兵庫県、県経産協会、県トラック協会、バイオビジネス創出研究会

※敬称略、順不同



今後のスケジュール(想定)

| 2024 | 2025 | 2030 | 2040 | 2050 |
|-----------|--------------|------|------|------|
| コンソーシアム組成 | 詳細調査(用地、技術等) | FS | FEED | 実証 |

出典：滋賀県CO2ネットゼロ推進課

チームしが県議団

NEWS #44

会派ニュース 2025.11

チームしが県議団

〒520-8577 大津市京町4丁目 1-1 県庁本館2階
TEL/077-528-4035 FAX/077-510-6520
MAIL/info@knw.jp

発行責任者 / 今江政彦 編集責任者 / 赤井康彦

9 月定例会議 代表質問

野田 武宏 議員が質問しました



気候変動へのさらなる対応について

Q 地震や風水害などの災害対策に「猛暑」という観点を加えた対策強化を

A 知事 水や塩分補給食品、冷却材などは、発災時には災害時応援協定を締結している企業から調達できる体制を整えているとともに、自助の取組を広げるため、8月8日の防災フェアから試行している「地震防災チェックリスト」を、猛暑対策の視点も加えて改良した上で本格運用していく。また、今年度、可搬型のエアコンと発電機を70台ずつ購入し、県立学校に配備する等、避難所における猛暑対策を強化している。市町に対しては継続して必要な物資の備蓄を、空調機器を扱う企業に対しては災害時応援協定の締結や内容の見直しをそれぞれ働きかけていきたい。

Q 本県教育現場への猛暑の影響と対策、また県立学校の体育館への空調整備について

A 教育長 市町教育委員会では夏季休業期間の延長、小・中学校では登下校時の冷却グッズの携行の推奨などの工夫がされているほか、中学校や高校においては運動部活動を中止することもあるなど、各学校において安全を第一に考え、教育活動全般で、適切な対応が行われているものと認識している。引き続き、熱中症対策の徹底やアップデートを促すとともに、各県立学校や市町の状況を確認し、必要に応じガイドラインの見直しを進める。また、県立学校の体育館空調設備については、今年度から特別支援学校で計画的に整備を進めているが、児童生徒をはじめ要望が多いことから、早急な整備に向けて検討を進め、快適な教育環境の確保を図っていく。

Q 滋賀の農業・水産業における猛暑の影響と今後の対策について

A 知事 高温に強い「みずかがみ」や「きらみずき」の作付拡大を進めるとともに、

主食用米や酒米について新品種の研究や現地試験などを行っており、早期の現場への導入を目指す。漁業でのアユの不漁は、猛暑による琵琶湖の表層や河川水の高温化に加え、琵琶湖でのえさ不足も重なったことなどが主な要因である。対策として、水温が低い河川での河床耕うんで産卵場を拡大し、産卵用人工河川への親アユの放流量を増やした上で、昨年より一週間遅らせた9月5日に 1.7 トンを放流し、9月まで分散放流する新たな運用を始めた。さらに、えさ不足に対しては、漁場生産力の回復に向けた具体的な検討を進めている。地球温暖化が進む中、今後も引き続き、新品種や水産資源回復技術の開発等に取り組み、滋賀の農業・水産業が次世代へと続くよう、気候変動への対策を推進していく。

彦根城の世界遺産登録について

Q 国内推薦見送りの結果を受けて、文化審議会から出された課題への県の理解について、また、今回の結果を受けた、彦根城単独で推薦を目指す方針について

A 知事 今回提示された課題は、他の城と彦根城を比較する際に、その客観性に疑義が生じないよう一層の説明の充実が必要であるとの指摘であるが、引き続き着実に取組を進めることで、乗り越えることができると考える。250 年もの長きに渡り平和な治世を続けた 江戸時代の「大名統治システム」と、その統治拠点としてシンボルとなった城は世界的に見ても普遍的な価値があり、彦根城がそれを伝える代表となる城だと確信している。これまでから単独での登録を目指して取り組み、7月に提出した推薦書案も、単独で登録することを前提とした内容で作成、提出したがその考えに変わりはない。

Q 知事が今後すべき事と登録に向けた決意について

A 知事 説明内容の客観性を高めることが必要であり、世界遺産や彦根城に精通された専門家等の知見をいただき、文化庁や彦根市と連携して推薦書案を磨き

上げていく。あと一步というところまで来ているので、何としても世界遺産登録を成し遂げるという決意のもと、最短目標である 2028 年の登録実現に向け、引き続き彦根市とともに全力で取り組む。

医療福祉拠点・看護人材の確保について

Q 看護人材の育成を行う大学誘致の検討状況について

A 知事 2月定例会議以降、再公募の実施を念頭に、近隣府県の私立大学に対する意向調査を行い、5つの法人から「関心あり」との意向が示されている。少子化が進む中での新たな投資は、法人にとっても大きな判断となるが、将来の学生確保や採算性といった経営面も含めた十分な検討の上、事業参画いただくことを期待している。医療福祉拠点における人材養成機能の整備を前に進めるため 10月頃を目途に再公募を行う。

Q 県内の養成所の定員充足状況など人材育成の状況と県政における評価について

A 知事 本県の看護師養成機関は、大学3、専門学校9、5年制課程1で、総定員は690名である。これらの学校において、これまで数多くの優秀な看護人材が養成されており、地域医療を支える大変重要な役割を担っている。看護人材確保において新規養成は特に重要で、これまでから県として養成機関を下支えしてきたが、専門学校の定員充足率は年々低下しており、直近の今年度の入学者は 67.2%まで落ち込んでいる。県としても課題を共有し、来年度に向けて、更なる施策充実について検討を行っている。

Q 施設・設備の状況について県の認識、これらの充実に向けた支援の必要性について

A 知事 ハード・ソフト両面における学ぶ環境の整備は、看護師養成機関の魅力向上や教育の質の向上につながるもので、学生の進学先選択の重要なポイントの1つである。県内の看護師養成所のほとんどが開校から20年以上経過しており、これまでも教室や実習室の改修工事や空調設備の更新などの補助を行ってきた。今年度はICT環境の整備等に対する支援の拡充を行ったところ。今後も関係者の声を聞きながら支援を検討する。

9 月定例会議の代表質問の項目

- ☐ 令和 8 年度の予算編成に向けて
- ☒ 気候変動へのさらなる対応について
- ☐ AI 時代の県庁の人材について
- ☒ 彦根城の世界遺産登録について
- ☒ 医療福祉拠点・看護人材の確保について
- ☐ 共生社会の実現に向けて
- ☐ 全国学力・学習状況調査について

動画も
ご覧ください野田議員
質問答
弁

【滋賀県議会公式サイト】 滋賀県議会録画放映

団体より伺った要望や意見から政策提言を行っています！

様々な団体から活動の現状や困りごと、県政に対する意見や要望を伺い意見交換を行っています。これらを基にして会派として県に政策提言を行い、新年度予算への反映などに取り組んでいます。北犬津養護学校のトイレの整備促進など、すぐに改善につながった事例もありますが、そうでない要望も実現に向けて粘り強く取り組んでいます。今年は8月22日から28日までの期間に集中的に行いました。

例年8月に行っていますが、これに関わらず意見交換のご希望がありましたらチームしが県議団までお問合せください。



彦根市・犬上郡

近江八幡市・竜王町

守山市

大津市

大津市

甲賀市

野洲市

米原市

彦根市・犬上郡

大津市

あかい やすひこ
赤井 康彦いまえ まさひこ
今江 政彦おがわ やすえ
小川 泰江かわい あきなり
河井 昭成さぐち よしえ
佐口 佳恵たなか まつたろう
田中 松太郎とば よしあき
富波 義明なかがわ まさふみ
中川 雅史なかざわ けいこ
中沢 啓子のだ たけひろ
野田 武宏